

タイトル：2023 年度 教育セミナー（第 19 回）

日時：2023 年 9 月 21 日（木）～24 日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室（303）

「ムガル帝国におけるヒジュラーについて：先行研究レビューを中心に」

村上梨緒（東京外国語大学博士前期課程 1 年）

「南アジアにおける性的少数者」という「中東」にも「イスラーム」にも直結するわけではない研究をしている私が今回本セミナーに参加した動機は主に 2 点あります。第 1 は今後修士論文を書き進めるに従い、テーマについて再考するため。第 2 は多様なディシプリン・地域の研究を進めている研究者・学生との交流を深めるためです。今回は 4 日間という短い期間でありましたが、上記 2 つの目標を達成できたと共に多くの学びを得ることができました。

私は自身の研究発表もさせていただき、様々な質問やコメントをいただいたことで自身の研究及び発表で至らない部分について気づかされました。日頃は南アジア地域研究のゼミに所属しているため、他地域の研究をされている皆様から御指摘をいただくことで、客観的な視点で自分の研究を見つめ直すことができました。

他の受講生の皆様の発表は、自身の地域・分野と異なるものが大半ではありましたが、興味深いものばかりでした。馴染みのない内容ばかりであるため理解が至らぬ場合もあったかもしれませんが、他の大学院で研究をしている同世代の発表を目にすることで刺激を受けることができました。本年度は対面開催ということもあり交流を深める機会もあったため、発表の時間以外にも疑問点や研究の方向性についてディスカッションすることができました。また、先生方の講義を通じて、学術や研究における西洋中心的思想や様々なバイアスに対する批判的視点を養うことができました。同じ外大内でありながら知る機会がなかった AA 研の先生方の取り組みやお人柄についても知ることができ、教育ではなく研究における外大の役割について再認識することも出来ました。

参加前は場違いではないかと不安に思っていたのですが、今回参加して、本当に良かったです。発表の機会を頂くと共に、研究者・受講生の方々と話すことで、つい自堕落に過ごしてしまいがちな長期休暇においても大学院生としての自覚をもって過ごすことができた気がします。また、今回の参加を通して〈外大生〉である自分が研究する意義は何か、ということについて考えさせられました。「外大生は言語が出来る」と評されることが多いですが、他大の皆様も一次資料等を用いつつ研究していると分かり、それでは自身の強み・独自の立ち位置は何なのか考えさせられました。〈ディシプリン→地域〉、ではなく、〈地域→ディシプリン〉から入った自分だからこそその観点を取り入れつつ今度研究を進めていければと考えております。

最後になりますが、今回の機会を設けて下さった AA 研教職員の皆様にご挨拶申し上げます。

す。今回得た学びや交流を無駄にせず、今後も研究に精進してまいります。